資料２－８

地域特性把握調査：樹上性小型哺乳類調査およびコウモリ類調査について

１．はじめに

地域特性把握調査のうち、本年度は樹上性小型哺乳類調査およびコウモリ類調査を実施した。いずれの調査も平成 15、16 年度に同一の手法による調査を実施している。

２．樹上性小型哺乳類調査

（1） 調査方法

過去の調査と同一の場所に、延長およそ 1km の 6 ルートを設定し（**図１**）、それぞれ 15 個の巣箱を、約 70m 間隔に設置した（ただし、ルート 6 は 3 カ所の防鹿柵内に 5 個ずつ設置）。巣箱は入口口径 36mm、奥行き 10cm、幅 10cm、高さ 15～20cm のものを用いた（**図２**）。巣箱は平成 22 年 7 月 13～14 日に設置し、8 月 24～26 日に見回りを実施している。

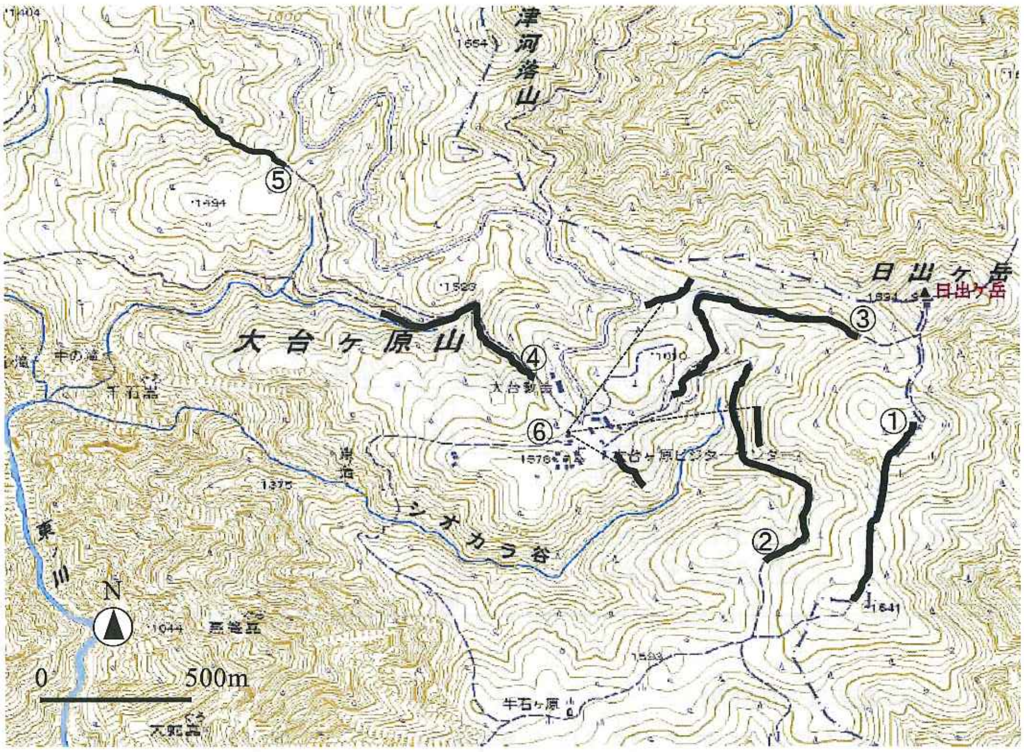

図１　樹上性小型哺乳類調査ルート
丸数字はルート番号

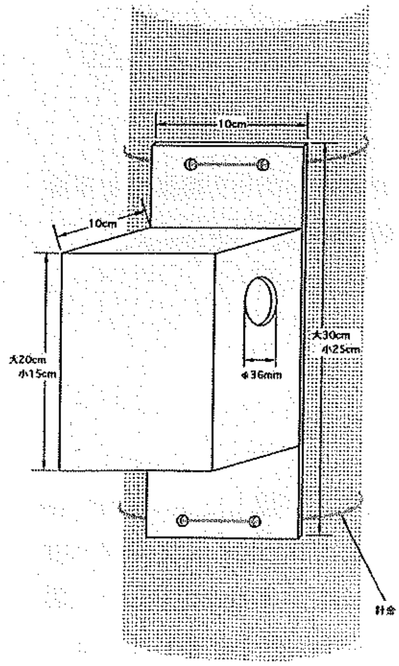

図２　樹上性小型哺乳類調査に用いた巣箱

（２）　調査結果

樹上性小型哺乳類調査の結果を**表１**に示す。８月の見回りにおいて、ルート３（日出ヶ岳登山道）において１個体のヤマネの生体を確認した。また、ルート２、４、６では哺乳類によって持ち込まれたと思われる巣材を確認した。巣材はすべて回収し、今後巣材から採取した体毛から、利用していた種の同定を試みる予定である。

表１　樹上性小型哺乳類調査結果（8 月まで）

ルート番号	ルート名	設置月日	見回り月日	のべ見回り巣箱数	ヤマネ（生体）	巣材
①	正木峠	7月13日	8月24日	15	0	0
②	中道	7月13日	8月25日	15	0	2
③	上道	7月13日	8月24日	15	1	0
④	教会下	7月14日	8月26日	15	0	2
⑤	ヤマト谷	7月13日	8月26日	15	0	0
⑥	柵内	7月13日	8月25日	15	0	1
合計				90	1	5

（３）　過去の調査結果との比較

本年度８月の調査と平成 15 年度、16 年度の調査結果について、**表２**に示す。平成 15 年度の調査では、ヤマネの生息は確認されなかった。平成 16 年度では、ルート 2、3、4、6 の 4 ルートで、合計 10 件の生息確認があった。本年度は現在のところ調査の中途であり、また巣材から採取した体毛の同定がなされていないため、1 件の生息確認にとどまっている。

表２　平成 15、16、22 年度における樹上性小型哺乳類調査でのヤマネ生息確認件数

ルート番号	ルート名	生息確認件数		
		平成15年度	平成16年度	平成22年度(8月まで)
①	正木峠	0	0	0
②	中道	0	2	0
③	上道	0	3	1
④	教会下	0	4	0
⑤	ヤマト谷	0	0	0
⑥	柵内	0	1	0
合計		0	10	1

（4）　今後の調査予定

9、10 月に見回りを実施し、10 月の見回り時に巣箱を撤去する予定である。また、巣材から採取した体毛から、利用していた種の同定を試みる予定である。

３．コウモリ類調査

（1）　調査方法

過去の調査と同一の場所、4 地点を調査地点に設定し、カスミ網による捕獲調査を実施した（図３）。カスミ網は日没前に設置し、深夜ないし翌朝日出後に回収した。カスミ網は目合い 36mm、棚数 9、高さ 5.4m、幅 6m ないし 12m のものを用い、現地の地形等に応じて L 字型、十字型などの形状に設置した。各調査地点について 1 ないし 2 晩の調査を実施した。調査中は網の周囲に調査員が待機し、バットディテクター（超音波探査機）（図４）によってコウモリ類の飛翔状況を記録した。

本年度の調査では、新たな手法としてハープトラップ（図５）による捕獲を試みた。4 地点の調査地点を設定し、各地点で 1 晩の調査を実施した。ハープトラップは日没前に設置し、翌朝日出後に回収した。

両調査ともに平成 22 年 8 月 22～26 日に実施した。

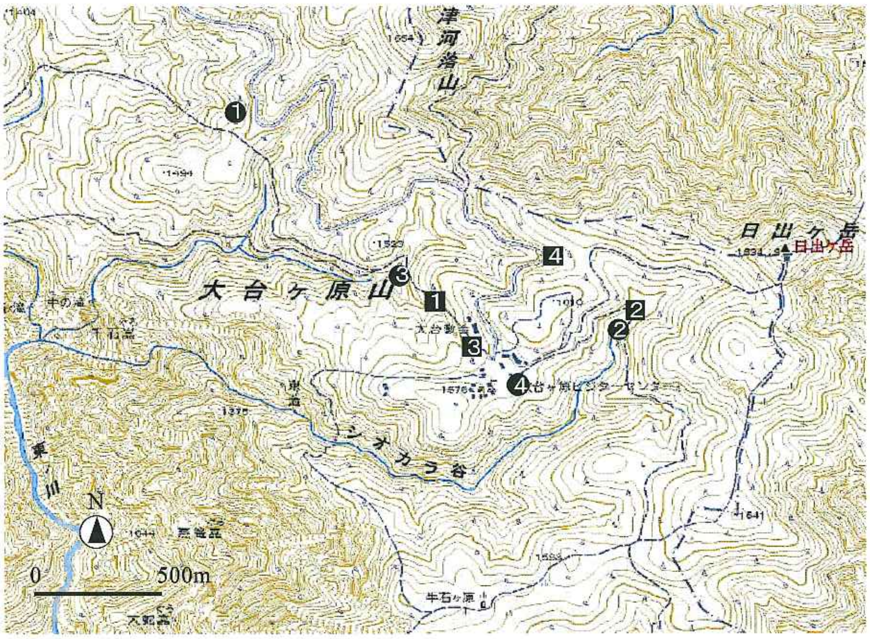

図３　コウモリ類捕獲調査地点

●はカスミ網による調査地点、■はハープトラップによる調査地点

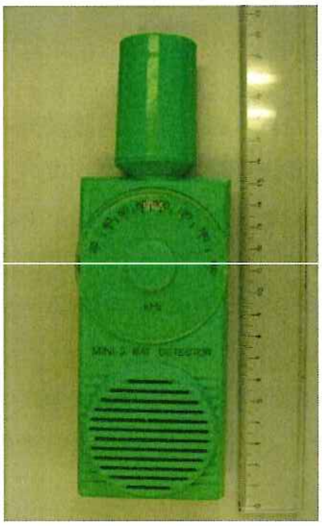

図４　バットディテクター

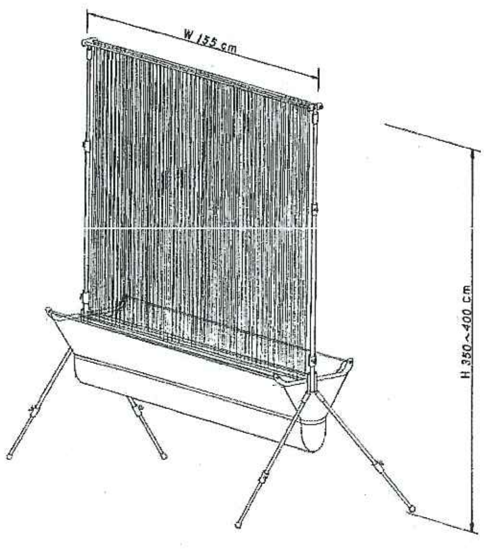

図５　ハープトラップ

（2）　調査結果

コウモリ類調査の結果を表３に示す。合計で２種３個体のコウモリ類が捕獲された。捕獲されたのはヒメホオヒゲコウモリ（1 個体）とモリアブラコウモリ（2 個体）であり、ヒ

メホオヒゲコウモリはカスミ網の調査地点3（教会下）で捕獲された。モリアブラコウモリはカスミ網の調査地点2、およびハープトラップの調査地点2でそれぞれ1個体が捕獲され、いずれも中道（ヒバリ谷）に位置していた。バットディテクターによる調査では、すべての調査地点において、周波数帯50kHz前後の音声を発しながら飛翔するコウモリの存在が確認された。また、コウモリ類以外の種であるが、カスミ網の調査地点2においてニホンモモンガが1個体捕獲された。

表３　コウモリ類調査結果

わな種	調査地番号	調査地点名	設置環境	調査日	捕獲数		
					ヒメホオヒゲコウモリ	モリアブラコウモリ	ニホンモモンガ
カスミ網	①	西大台(ヤマト谷)	沢	8/23～24	0	0	0
カスミ網	②	中道(ヒバリ谷)	河川	8/24～25	0	1	0
カスミ網	②	中道(ヒバリ谷)	河川	8/25～26	0	0	1
カスミ網	③	教会下(ナゴヤ谷)	河川	8/22～23	1	0	0
カスミ網	④	ビジターセンター横	歩道	8/24～25	0	0	0
ハープトラップ	1	教会下(ナゴヤ谷)	沢	8/22～23	0	0	0
ハープトラップ	2	中道(ヒバリ谷)	河川	8/25～26	0	1	0
ハープトラップ	3	教会横	涸れ沢	8/23～24	0	0	0
ハープトラップ	4	大台ヶ原山	涸れ沢	8/24～25	0	0	0

（３）　過去の調査結果との比較

本年度と平成15年度、16年度の全調査地点におけるコウモリ類捕獲数を表4に示す本年度捕獲されたヒメホオヒゲコウモリとモリアブラコウモリは、平成16年度にすでに生息が確認された種であり、新たな生息種の確認はなかった。

表４　平成15、16、22年度におけるコウモリ類調査の結果

調査年度	捕獲数							
	モモジロコウモリ	ヒメホオヒゲコウモリ	ノレンコウモリ	モリアブラコウモリ	ヤマコウモリ	ヒナコウモリ	テングコウモリ	コテングコウモリ
平成15年度	1	0	0	0	1	4	0	0
平成16年度	0	1	1	1	0	1	1	1
平成22年度	0	1	0	2	0	0	0	0

４．まとめ

本年度の樹上性小型哺乳類調査では、6ルート中1ルートでヤマネの生息が確認された。今後予定されている2回の見回り及び巣材に含まれる体毛の同定によって、確認地点は増える可能性が高く、ヤマネの生息状況に大きな変化は見られていないことが予想される。

コウモリ類調査では、過去にも生息が確認されていた2種（ヒメホオヒゲコウモリ、モ

リアブラコウモリ）が捕獲された。コウモリ類の確認種数は過去の調査よりも少ない結果となったが、バットディテクターや目視によって多数の個体が飛翔していることが確認されており、今回の調査で捕獲されなかった種も存在すると思われる。コウモリ類のモニタリングでは長期的に調査を継続し、その動向を把握することが重要である。

今回、カスミ網によってニホンモモンガが捕獲された。大台ヶ原地域におけるニホンモモンガの生息については、これまでに三重県立博物館所蔵標本による情報があったのみで、現地において捕獲された事例は初めてであると考えられる。ニホンモモンガは生息の確認が非常に困難な種であり、今回の事例は本調査における大きな成果である。